



運動会以降の取組 ~行事と日常生活をつなぐ~

運動会が終わり、1か月がたとうとしています。運動会の取組を通して、培ってきた力(成果)と十分達成できなかった課題を、その後、どんな場でのどのように培っていくのかを明確にして歩いていくことが大切です。そこで、各学年、様々な行事の中で、特にどんな活動を核として、どんな力を身につけるようにしていくか、そのためには日常生活でどんなことにこだわり実践していくのかの見通しをもち、取組をスタートし始めています。

5年生は、運動会を終えて、すぐに『白川郷宿泊学習』に向けての取組みがスタートしました。「仲間と協力し、やりきって楽しかったと思える宿泊学習にしよう」をスローガンとし、宿泊学習を成功させたいという強い願いをもっていました。さらに、スローガン達成のために、毎日の生活で『時間・あいさつ・掃除・仲間の呼びかけに伝える』という4点のことを意識する必要があると考え、毎日帰りの会で振り返りをしてきました。当日、白川村では、「餅つき、オリエンテーリング、タベの集い、自然散策」など、初めての活動と、「時刻を意識した素早い集合、あいさつ、掃除」など、学校生活と同じ活動もあります。初めての活動については仲間と協力しながら、思い切り楽しみ体験してきました。学校生活と同じ活動については取組みの成果がどれだけ発揮できたか評価する場でもあるため、大変厳しい目でみてきました。

日	呼びかけに伝える	時間	そじあや
14	X	△	△
17	X	△	X
18	△	○	△
19	○	○	○
20	X	X	○
21	△	△	○
24	△	△	○
25			
26			

白川郷の反省

このように、「行事と日常生活をつなぐ」ことを通して、子どもたちの確かな成長を育んでいきたいと思えます。

他の学年では、どんな行事があるのか、それに向けて日常生活のどんなことにこだわって取り組んでいるのか、お子さんに聞いてみてください。

相手の目を見て、多くの人にあいさつしよう

10月の生活目標は、『相手の目を見て多くの人にあいさつしよう』でした。企画・代表委員会は、前期のメンバーと後期のメンバーの入れ替わりの時期になり、工夫した活動を展開することまではできませんでしたが、毎日、校門であいさつをし、めあてについてよかった子の名前を紹介したり、あいさつボランティアとして自主的に校門前に立ってあいさつをしていた子の名前や人数を紹介したりしていました。10月最終週は、企画・代表委員会が目を見てあいさつをすることができた子に、「目を見てあいさつ名人」カードを配付しました。「目を見て」を意識する子が大変多くなりました。11月以降にも継続できることを期待しています。家庭でも、大人が「目を見てあいさつ」を意識し、お子さんに働きかけてください。習慣化することが大切です。

あいて め み
相手の目を見て
めいじん
あいさつ名人

あなたは、相手の目を見て、たいへんすばらしいあいさつができるあいさつ名人です。これからも続けてください。

また、「大きな声で」「さきがけで」「おじぎをして」などのすてきなあいさつを、多くの人にできるようにしましょう。児童会といっしょに、がんばりましょう。

平成28年10月20・21・24・25・26日
北方町立北方西小学校児童会